

第 7 回 第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会会議録

【会議概要】

日 時	平成 30 年 12 月 17 日（月）15：00～17：00
場 所	武蔵野商工会館市民会議室ゼロワンホール
出席委員	福田敦委員長、姫野裕基委員、花俣延博委員、川口幸子委員、榎本一宏委員、黒竹光弘委員、西塚裕行委員、目黒裕人委員、渡邊昭浩委員
欠席委員	松岡拓公雄副委員長、稲垣英夫委員、野口篤志委員
事務局	生活経済課 西川課長、平塚課長補佐、劔持主任、北村主任、有賀主事 吉崎主査 パシフィックコンサルタンツ株式会社 3 名
オブザーバー	武蔵野市商店会連合会 1 名、武蔵野商工会議所 1 名
傍聴者	1 名
会議次第	1 開会 2 議事 （1）視察結果概要について （2）第二期武蔵野市産業振興計画素案について 3 その他 4 閉会
配布資料	次 第 資料 1 第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会 第 6 回策定委員会会議録 資料 2 第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会事例視察結果概要 資料 3 第二期武蔵野市産業振興計画素案

【議事】

1 開会

2 議事

（1）視察結果概要について

委員長	第 7 回第二期産業振興計画策定委員会を開会します。よろしくお願いします。
委員長	パブリックコメントの実施時期について、改めてご報告する。前回の策定委員会においては 12 月中に実施する予定だったが、協議の結果、1 ヶ月延期し 1 月 15 日から 2 月 5 日までの期間で実施する方向で調整をしている。本日は前回の策定委員会で議論した中間報告の修正版を配布している。この内容について、委員の皆様にご審議を頂き、1 月のパブリックコメントに向けたご意見を頂きたい。それでは、事務局より資料の説明をお願いする。
事務局	<資料 2 資料説明>
委員長	視察にご参加頂いた方の中で、補足や武蔵野市産業振興計画の中にどのような形で事例として反映させていくかなどのご意見があればお願いしたい。
委員	武蔵野市の産業計画の視点からもシェアオフィスやワーキングスペースの運営に携わっている身として、非常に貴重な機会であった。1 つ目の THE HUB 南青山は、青山での登記や事務所登録ができることが企業のブランド価値となり集客できるという点が印象的であった。内装もお洒落で南青山で会社登録するのに相応しいハード

	整備だったと思う。吉祥寺においても「吉祥寺ブランド」として外部からも呼び込むことができていると思っている。それに見合ったハード整備も必要ではないか。また、個室が安いことにも驚いた。 2 つ目の横浜の mass×mass 関内フューチャーセンターは、ソーシャルビジネスに特化している点が特徴的で、尖った部分があると人が集まりやすいと感じた。また、スクール事業やイベントなどを行い卒業生も多数いるところが南青山と異なる点かと思う。吉祥寺でやらせて頂いているところは、中間くらいの位置付けになるので、どこか特徴付けていったほうがよいのではないかという反省点があった。
委 員 長	産業振興計画の中でも創業や起業において、スクールなどのソフト面での教育は大事であり、場所のあり方として 2 つの施設を見学することに意味があった。1990 年頃のイギリスでは規制緩和を進める中で、街中で起業をするために場所を支援していた。創業支援のあり方としては、ひとつ見る価値はあると思う。

（２）第二期武蔵野市産業振興計画素案について

委 員 長	第二期武蔵野市産業振興計画素案について、事務局から資料の説明をお願いします。
事 務 局	<資料 3 資料説明>
委 員 長	先月の第 6 回委員会では中間素案について審議し、現行の産業振興計画に承継していく方向で修正して頂いている。軸やデータについては整理し、必要なものについては反映して頂いている。先月に比べ、パブリックコメントに向けて整ってきた印象である。ご意見等お伺いしたい。
委 員	パブリックコメントを意識した内容としては非常にわかりやすいが、具体性が足りないように感じるところがある。
委 員	24 ページの「1) 就労支援策及び市内雇用の推進」について、若者の就業意欲がないように捉えられる。現在は売り手市場なので、セミナーに参加しなくても内定が決まるということも背景にある。「若者の就業意欲の喚起」という表現は誤解を招くのではないか。 また、「2) 後継者育成」について、「具体的な取組みは進んでいない」と言い切ってしまうのだろうか。25 ページの「2) 事業継承の推進」において、「事業承継の支援を進めている」と記載しているので、「進んでいない」と言い切るのはもったいない気がする。 26 ページについて、課題の整理で基本目標につながるロジックの部分だが、「(1) 現況に対する課題」となっており、(2) 以降は基本目標と一致しているのは理解できるが、方向性と目標を示す表現となっている。課題の整理であればタイトルが方向性を示す記載になっていると、「産業振興」や「対応」という表現は適切ではないと思う。 31 ページの表について、「目標 5」の「人材」の部分の色が異なっているのはなぜか。最後に 32 ページの重点的取組みについて、この 8 つを重点的取組みとした根拠を示したほうが市民にご理解頂けるかと思う。
委 員 長	前半部分でのご指摘の通り、記述が矛盾している表現の仕方もある。
事 務 局	24 ページの「1) 就労支援策及び市内雇用の推進」について、一面的な捉え方だと思うので修正する。また、「2) 後継者育成」についても、個人商店などについては家族間の問題もあることから取組みが進んでいないイメージを表現しているので状況を精査する。個人経営での事業承継については、実施できるものについては関

	係機関との連携において進めていく。26～27 ページの表題の部分について、つながりを整理しながら精査したいと思う。31 ページの体系表について、現在は白黒になっているのでご理解頂ければと思う。重点的取組みについては、ご指摘の通りであるので概要を記載する。
委 員	32 ページに 8 項目の重点的取組みがあるが、この部分にスケジュールを記載して頂きたい。この 5 年間は、年号が変わる、オリンピックが開催されるなど、イベントが多い期間である。いつ何を取組むのかを重点的に記載したほうがわかりやすいと思う。 33 ページからは各目標についての内容が記載されているが、具体的に取組むことの項目だけでもはっきりさせたほうがわかりやすい。
事 務 局	32 ページの重点的取組みのスケジュールについて、現状で取組んでいることも含めて記載しているので、スケジュールの表現方法については検討する。33 ページ以降では、具体的な事業名などをできるだけわかるようにしていく。
委 員 長	産業振興計画では、取組む施策についての体系や関連図をどこまで反映させるかというところにも関わってくる。前回は細かすぎたので、具体的な施策についてはどこまで計画に反映させるかを整理して考えていく必要がある。
委 員	28 ページで、ここで何を言いたいかというところと第 4 章につながるキーワードがあるが個人的にはわかりづらい。 32 ページについて、なぜ重点的取組みとして取り上げたのかという理由付けと「目標 2」のみ重点的取組みがない。無理矢理つくる必要はないが、「目標 2」に関わる重点的取組みは本当はないのか。
委 員 長	28 ページで SWOT 分析をしているが、通常はクロス分析をして方向性を出し、29 ページ以降につなげていくことがストーリーとしてわかりやすい。SWOT 分析だけを行っておりクロス分析をしているところが見えていない。また、キーワードはこれだけでよいのか。第 4 章での施策の体系において、どの程度キーワードが活かされているのかという関連性やつながりが浮いている感じがするというご指摘だと思う。SWOT 分析をすることはよいが、つながりをもう少し整理する必要がある。
委 員	14 ページの東京都中小企業・小規模企業振興条例の制定時期の記載について、パブリックコメントの段階では整合をとるようにしたほうがよい。第二期振興計画において、この計画の目玉をもう少し強調させたほうがよい。現行計画との大きな違いや賛否が分かれるような記述の部分があれば教えて頂きたい。
委 員	素案の構成は前回に比べて整理されてきたので、パブリックコメントを頂戴するひとつのベースになると思う。15 ページの「(2) 従業員数・事業所数」という項目で、以前は経年変化を記載していたが、経年的な流れを明示させたほうがよい。
委 員 長	現状や実態のグラフ化や都計統を加工して示す場合、平成 28 年時点での現状か推移のどちらを主とするのか。将来を含めて時間軸で見たほうがよいということと現状を確認するということのメリハリつけたほうがよい。変化の激しいグラフについては、説明を記載したほうがよい。グラフの作り方については工夫をして頂きたい。 また、19～20 ページにおいて、コメントは回答が多い順に記載され、グラフは順不同になっているので、順番は統一させたほうがよい。
委 員	農業についても記載されているのでよい。重点的取組みの「都市農業の振興と農地の保全」という部分で、今後 5 年間でどれだけの保全ができるかという目標値があるとよい。
委 員	22 ページの「(1) 武蔵野のブランド力を高める産業振興」という部分で、「むさ

	しのプレミアムやごちそうフェスタなどの商工会とのイベント」とあるが、「商工会」ではなく「商工会議所」である。また、23 ページの 1 行目も同様に修正して頂きたい。吉祥寺駅南口の再開発や家賃の高騰なども記載されているのでよいと思う。 27 ページの武蔵境圏に南北圏の回遊性について記載して頂きたい。 34 ページで、ふるさと納税について国から厳しく指摘されており、武蔵野市からふるさと納税により流出している税金が 5 億円ある。ふるさと納税返礼品の検討や開発は、むさしのプレミアムから出すことを想定しているのか。 36 ページの「③武蔵境駅周辺」で、「地元の商店会が大学等の教育機関、企業、駅等が連携して活動している『武蔵境活性化委員会』を中心として」とあるが、境商店会連合会が中心となり、その下に境活性化委員会があると認識している。補助金等は境商店会連合会を経由して活性化委員会に入るという流れなので、活性化委員会を中心とすると語弊が出るので検討して頂きたい。
委 員 長	事務局で回答や補足があればお願いしたい。
事 務 局	境商店会連合会については認識をしているので、記載方法は調整する。また、武蔵境圏の南北の回遊性についても同様に調整する。ふるさと納税返礼品については、むさしのプレミアムだけでなく、幅広く探していければと検討している。農地の保全に関して、農業振興基本計画に記載されている計画を産業振興計画に反映させているので、それ以上の計画を検討するのは難しいところである。
委 員 長	26 ページの「(2) 都市観光の推進」にふるさと納税についての記載があるが、項目と内容が異なる印象を受けるので検討して頂きたい。前回の中間報告案に比べると、項目や内容ともに深められたと思う。表紙について、「第二期武蔵野市産業振興計画 素案」となっているが、タイトルの部分に計画期間を記載して頂きたい。目次に関しては、資料編に章立ては必要ないので削除したほうがよい。 1 ページの文章についてもわかりづらいところがあるので整理したほうがよい。2 ページにおいて、国の法律等が記載されているが、前ページで記載されている法律が反映されていないので、整合性をスムーズにしたほうがよい。 5 ページで人口のグラフが示されているが、現在の人口の構成について述べているのはこのページのみである。高齢世帯や単身世帯の動向はビジネスや産業振興につながるの、そのような人口の動向については記載すべきである。 7 ページの財政についても、中長期的な財政の見通しが示されているのであれば補足したほうがよい。 15 ページで、「(2) 従業員数・事業所数」と記載されているが、経済センサスなどの統計類では「従業員数」ではなく、「従業者数」や「就業者数」と表現するのが正しいと思うので修正して頂きたい。 30～31 ページの「グローバル化に対応した産業振興」について、グローバル化とは観光客や訪日ゲストへの対応か市内産業の市場なのか。武蔵野市で策定する産業振興計画はどちらを意図としているのか。それと同時に、ICT や AI などの情報化の捉え方が何を目標とするのかという点が読み手からすると整理できない。AI についてこの 5 年間で変化し、参入事業者だけでなく生活者が関わる形で変革を及ぼしていくので、動向などを考えるともう少し記述を加えてほしい。 28 ページの「課題解決に向けた方針の検討」について、クロス分析した上で方向性を出して考えていくのがよい。
P C K K	クロス分析もやっている。「1. 課題の整理」と「2. 方針の検討」としているが、社会情勢として AI の変化やグローバル化の問題について整理をし、社会での強み

	や弱みがあるから課題や方針が必要だということ加えなければならない。その中でクロス分析した成果を上手く表現しなければならないので、SWOT 分析の部分はもう少しわかりやすく表現したいと考えている。
委 員 長	AI について市が取組むということは難しい。40 ページに「商工会議所と連携した経営支援の強化」と記載されているが、規模の小さいところほどイノベーションの波の影響が大きいと思う。そのような部分を市内の事業者の方々が産業経済の動向を身近に感じるセミナーを開催することは必要だと思う。AI の部分は重要であるので、その点も視野に入れた産業振興計画になっていることも記載したほうがよい。
事 務 局	グローバル化について、30 ページの「目標 4」で武蔵野市の産業がそこに打って出るという意味ではない。従来 of 事業のあり方を見直さなければ、今後の商売での競争力がなくなっていくのではないかとということで記載した。具体的なものというよりは方向性がはっきりしてきたら市としても支援の方向を定めていきたいと考えている。
委 員 長	施策の部分で、「キャッシュレス決済等 ICT 機器導入への支援」と記載されているが、潮流の流れに対応するということを含めてグローバル化の対応という意味でよい。
事 務 局	情報化も含めてグローバル化と考えている。
委 員 長	目標について「グローバル化」だけでなく、「グローバル化や ICT 化」としたほうがスムーズになると思う。
委 員 長	他に確認しておきたいことはあるか。用語の説明については別に記載するのか。
事 務 局	最終的に用語説明は記載する。注釈が必要な用語がいくつかあるので、そのようなものは記載していこうと考えている。
事 務 局	重点的取組みが基本施策と施策の中に溶け込んでいる形になっているが、これについてはわかるような目印をつけたいと考えている。現行計画よりも踏み込んで記載している部分もあるのでご確認頂きたい。 33 ページの「④産業と福祉の連携」について、黒竹委員からのご意見を踏まえて記載している。34 ページの「①コンテンツツーリズムによる都市観光の推進」は、市長からも今回の産業振興計画の中で提案していけることはないかという話もあり記載したが、委員会の中で具体的なメニューが上がっていないところが悩ましい。こちらについてもご意見頂ければと思う。ふるさと納税についても市として力を入れていくことになったので項目として記載している。具体的に表現を膨らませられるようなご提案があれば反映させたい。35 ページの「目標 2」の部分について、重点的取組みがないとご指摘も頂いているが、これまでに取組んできていることを具体化させていきたいところだと思っている。特に「空き店舗等への出店支援体制の検討」については、これまで取組めていなかったようなことを検討していきたいと思う。 また、「基本施策（2）」の「①高齢者等の買い物支援策の検討」についても、今後 5 年間で具体的に取組んでいきたい。36 ページの「目標 3」は、今回の計画の目玉の部分になると思う。「3 駅圏ごとの特性に応じたまちづくり」ということで、駅ごとに課題を整理し方向性を示しているが、特に吉祥寺駅周辺と三鷹駅周辺については、これまで以上に取組んでいきたいことを記載している。吉祥寺駅周辺については、モノづくりのまちであるということと言及しており、「それがまちの魅力であり活力を生み出している」と表現している。今後も個性的な店舗や新しい企業が集まるまちであり続けるためにどうしたらよいかという施策を考える表現となっ

	ている。「井の頭恩賜公園や駅周辺の公園等の公共空間を活用して、地域の商店街・店舗の PR につながり、周辺自治体とも連携したまちの回遊を誘導するイベントを支援し、まちの賑わいを創出するとともに、効果的なシティプロモーションの手法についても検討する」と具体的に記載している。 三鷹駅周辺は、委員会でも様々なご意見とご提案があったことを踏まえ、「中央線の特別快速が止まり総武線と東西線の始発駅であるという利便性の高い駅である」、「駅周辺に外食チェーンの本社やアニメーション制作会社が集まり、有数の情報通信関係の関係施設がある」ということも記載している。また、「駅周辺に低未利用地が見受けられるのでオフィス街として発展する可能性を秘めている」、「オフィス事業に対応する方策を検討する」ということをはっきりと記載している。「企業スポーツの盛んな横河電機、総合体育館や陸上競技場、都立中央公園などの立地を活かしたスポーツによる産業振興や外食チェーン本社の集積を活かしたフードバレー構想、企業誘致などの開拓の可能性を検討する」という表現にまとめている。この辺りについてのご意見等があれば教えていただきたい。
委員長	具体的な記述の内容について、このような表現方法でよいということと内容をご覧頂いてお気づきの点があればご意見を頂きたいということであった。
委員	33 ページの「④産業と福祉の連携」について、趣旨としてはこの内容でよいと思う。具体的な表現方法はもう少し検討したい。
委員	ふるさと納税返礼品について、むさしのプレミアムだけに限定されてしまうと少し違うという意識を持っていた。
委員長	市はふるさと納税返礼品について言及しているのか。
事務局	具体的な返礼品については今後検討していく。方向性としては、むさしのプレミアムに限らず、市内の産業振興につながるような返礼品なども含めた体験型やコト消費、トキ消費といったものにつながるような返礼品を検討できればと考えている。
委員長	ものづくりは、製造技術や加工技術を意味しているのか。
事務局	アニメや音楽、デザインなども含めた広い意味でのものづくりと考えている。
委員長	大学はひとつの地域資源と考えられる。学生に調査などで協力して頂くような工夫や街中をキャンパス化するという展開も産業振興に関わってくる。学生や主婦、シニア世代への配慮はいくつか記載されているが、学生も地域の方からすれば資源になるので、武蔵野市で学生を巻き込んで考えていくという視点がないように感じる。 関東学院大学でビジネスプランコンペティションを行い、様々なところから審査員にアドバイスを頂く機会があった。学生ならではの視点で社会や経済、地域についての案をコンペ形式で行った。プランナーに対するインセンティブを与えるような機会をつくりあげていくのも産業振興だけでなく教育でもあるのでよいのではないかと。いくつかの大学は連携協定を結んでいるので、それを産業版として活かしていけるような視点が産業振興計画の中にあればよいと思う。
委員長	以上をもちまして、第 7 回「第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会」の会議を終わります。ありがとうございました。

3 その他

- ・ 次回の会議日程は 1 月 21 日（月）15 時から、場所は武蔵野商工会館とする。
- ・ 議事要録案および開催通知は別途、メールでお送りする。

- ・ ご意見は 12 月 25 日（火）までに頂きたい。頂いたご意見は 12 月 28 日（金）に市長・副市長との協議に反映する。
- ・ 次回はパブリックコメントの期間中であるため、パブリックコメントの意見を反映させたものについては 2 月 25 日（月）にご確認頂く。
- ・ 今年度最後の会議日程は、2 月 25 日（月）15 時から、場所は武蔵野商工会館とする。

4 閉会

以上